

# Young Officials' Camp 2011

## 参加報告書

報告者 藏本 真奈美

- 期間 8月12日(金)～8月14日(日)
- 会場 上尾運動公園体育館、スポーツ研修センター
- 参加人数 50名(内訳:男性30名、女性20名)
- スケジュール

8月12日(金) ≪1日目≫

12:30～ 受講者受付

13:00 開講式【プラザ22】

1. 部長挨拶と講師紹介(関口知之副部長)
2. 諸連絡 総務委員会

13:30 <講義I>

「モチベーションコントロール研修」

講師:松場俊夫氏(NPO法人「コーチ道」代表理事)

16:30 諸連絡後、スポーツ研修センターへ移動

17:00 講堂にて宿泊施設利用の連絡

19:10 <講義II>【講堂】DVD講義

「ルールについて」

講師:平野彰夫氏(規則委員長)

20:10 <講義III>【講堂】DVD講義

「ルールについて」

講師:平野彰夫氏(規則委員長)

20:50 橋本 信雄部長 挨拶

20:55 班別ミーティング【講堂】

8月13日(土) ≪2日目≫

9:30 <実技I>【上尾運動公園体育館】

講師:平 育雄氏 安西 郷史氏 倉口 勉氏

※高校生男女のモデルゲームを使い実技講習

19:00 <講義IV>【講堂】

20:40 閉講式【講堂】

1. 部長挨拶（吉田 利治副部長）
2. 講師代表講評（吉田 利治副部長）
3. 諸連絡 総務委員会

21:00 ホテルへ移動

8月14日（日）

7:00 移動

8:30 移動・実技準備

9:30 <実技Ⅱ> 【上尾運動公園体育館】

※各自帰りの交通機関にあわせて随時解散

○講義・ミーティング内容

<講義Ⅰ> 「モチベーションコントロール研修/セルフ・モチベーション・コントロール」

講師：松場 俊夫 氏（NPO 法人「コーチ道」代表理事）

<<内容>>

### GOOD & NEW

24時間以内の新しい気づきやよかったことを発表しあう習慣を持つことで、「よいことを探す目」が育っていく。学校で実践してみると、子どもたちの目線が変わり、ネガティブなものの見方がなくなってきた。レフリーも同じである。

失敗を気にして引きずるのか。

失敗を受け止めてプラスに考え、切り替えることができるか。

モチベーション=WILL（やりたい）×MUST（やらなきゃ）×CAN（やれそう）

モチベーションが下がると、思考や行動が停止してしまうので、自分でモチベーションをもとに戻せるようにしたい。下がったモチベーションを上げるのではなく、気持ちをフラットにすること、引きずらずに切り替えることを「セルフ・モチベーション・コントロール」という。

モチベーションは、内的要因で、本人（自分）が、“こうしよう”と思わないと変えることができない。

セルフ・モチベーション・コントロールをするために・・・

① 自分のモチベーションの源泉を知る。（自分のパターンを知る。）

自分がやる気満々で、調子の良い時を知る。

② コントロールできるものに、エネルギー（意識・時間）を注ぐ。

自分、思考、行動、未来は、コントロールできるが、他人、感情、生理反応、過去はコントロールできない。無理に他人を変えようとするのは、逆効果になるので、自分から相手へのアプローチの仕方を変える。

③ 対極思考法で、思考を切り替える。

「他人」や「過去」、「感情」「生理反応」はコントロールできないので、まずは、「自分」の「思考」をコントロールする。そのための考え方として、『対極思考法』を活用する。そして、「自分」の「行動」を変化させることで、「未来」を変えていく。

- 自分⇔相手・・・・・・見方を変える。相手の立場に立つ。客観的にみる。
- 今⇔将来・・・・・・時間軸を変える。
- ピンチ⇔チャンス・・・・ピンチはチャンス！！発想の転換をする。
- 手段⇔目的・・・・・・そもそも、何のために？と思い返す。

思考が変わると、行動が変わる。

### <講義Ⅱ・Ⅲ> 「ルールについて」

講師：平野 彰夫氏（日本協会 規則委員長）

#### 《内容》

- ・分かりやすく伝えるためのシグナルは大切
  - STOP CLOCK やジャンプボールシチュエーションは頭上にしっかりと上げる。
  - アウト・オブ・バウンズはディレクションのみではいけない。
- ・ノーバスケットのスローイン
  - シュート前のヴァイオリションやオフボールのファウルであっても、ゴールが認められないのなら、フリースローラインの延長線からスローインを行う。
- ・ファンタジーファウル（Fantasy Foul）=Straight Line
  - ファウルのみでなく、ヴァイオリションについてもストレートラインにならないように。
- ・シリンダー（Cylinder）
  - リーガルガーディングポジションで位置を占めても、トルソーの接触でないと触れ合いの責任はディフェンスになる。ノーコールはあるが、オフENSEの責任にはならない。

### <実技講習Ⅰ> 高校生によるモデルゲーム・10分ハーフゲーム

13日（土）

[女子] 富士川口湖一小山西 主審

相手審判員 高橋 優毅（北海道）

講師：倉口 勉 氏、安西 郷史 氏

#### 【ご指摘いただいた点】

- ・トレイルの役割
  - リードとの協力
  - ボールマンのスペースだけを見るのではなく、レシーバーも視野に入れておかなければいけない。

ボールとその周辺＝ボールマン、ボールマンディフェンス、  
レシーバー、レシーバーディフェンス

- ・ オフェンスのカットインに対する見方  
→ ついていって、ストレートラインにならないように。
- ・ リード（サイドラインからトレイルがスローインするときの位置）  
→ どこにプレイヤーがいるかでリードのいる位置を変える。
- ・ リードの受け方  
→ ① オフェンスとディフェンスが対等  
② オフェンスの勝ち  
③ ディフェンスの勝ち

[男子] 川越南一早大本庄 主審  
相手審判員 米澤 宏隆（石川）

講師：イリア・ベロセヴィッチ 氏、平 育雄 氏

【ご指摘いただいた点】

- ・ 笛をくわえてのジャンプボール  
→ 選手との接触があったときに危ないので、控えたほうが良い。
- ・ T.Oへのコール  
→ シグナルが高くて見えにくいことがあるので、目線の高さでコールすることに気を付ける。
- ・ 24秒オーバータイムなのか、ジャンプボールなのか  
→ ぎりぎり、ジャンプボールにした場合、アローで相手ボールになったら、今まで頑張ったのに・・・
- ・ コンタクト＝ファウル???  
→ 見極められるように。どんどん吹いていく。TRYする。
- ・ 見に行つて踏み込むことはOK！踏み込みすぎて選手やボールとの接触にならないように。

<講義IV> 講話

講師：イリア・ベロセヴィッチ（Mr.Ilija Belosevic）氏（セルビア/FIBA 現役審判員）

☆2 パーソンの大事な要素

- ・ Running
- ・ Boxing-in
- ・ Freezing : 一度止まって、プレイヤー全体を見ておくこと。  
(ファウルを取り上げていない、レポートに行かない審判が行う)  
日本では、あまり起きないが、世界ではファウルを吹かれたプレイヤーが過度なアピ

ールをしたり、相手プレイヤーに肘をぶついたりすることが珍しくない。  
→すぐにボールを追いかけてはならない。

☆若い人たちに求めていること・思っていること

目の前の目標を見定めているか。

(FIBAレフリーは現在1340人いるが、オリンピックの舞台に立てるのはその中の40人のみである。その一人になれるようことを信じて、毎日精進していこう！)

☆ゲームマネジメントについて

・ルールブック通りに吹くだけが良いレフリーではない。

・何かとゲームを良い方向へ持っていける人

コーチ、プレイヤーが何をしようとしているのか、先読みする。

ゲームのテンポは常に変わっている。ゲームを感じて、簡単なものから難しいものまでさまざまだが、何とか良い方向に行くように考え続ける。

→これができる人が上級になれる。

・ハードコンタクトの多いゲーム

→正しい判定、場所を積み重ねていくこと。

・正しい判定がコーチ、プレイヤーにとって好ましくないこともある。

→自分のやっていることに自信を持て！！

それぞれ人柄が違うように、対処の仕方も様々である。

(自分の意見を言うコーチの話を聞く)

文句や抗議に対しては、説明をしっかりとすること。

(求められないのならしない)

・ **Spirit the game**

常に、プレイヤーの気持ちを気遣って、どう対処しようか考えてなければならない。

プレイヤーのストレスが審判に対するものではなく、自分のプレイへのいら立ちなのであれば、テクニカルファウルではなく、優しく声をかけてあげよう。

・プレイヤーから「ファウルしてない！」というアピール(明らかなファウルするとき)

→感情的にならず、優しく「次はテクニカルファウルだよ。」と伝えてあげる。

・最初と最後の5秒はどんなことがあってもミスをしてはならない。

→その試合を観戦したみんなが必ず覚えているため。

・ **Clear Mind、Clear Heart**

頭は冷静に、心は穏やかに

もし、ミスをしていたら・・・

忘れて次へすすめ！！引きずったらミスが増える。集中していたら次はきっとできる。

## <全体の感想>

今回のヤングオフィシャルキャンプ 2011に参加させていただき、イリア・ベロセヴィッチ氏、日本の上級審判の方々に講師として指導していただきました。このキャンプではとても貴重な体験となりました。日本全国の同年代の審判員の方と一緒に講義を受けたり、ゲームに臨んだりすることができ、とても刺激を受けました。

私は、今回のYOC参加にあたり、①見えたものをしっかり判定すること（自分らしく）②ゲームに乗り遅れないようにしっかり走ることの2点を意識して参加しました。

実技では、上記の点を意識して取り組みながら、講師の方々にさらなる課題を多々ご指摘いただきました。自分のゲーム後のミーティングだけでなく、同じ班のメンバーのミーティングに参加したりして、アドバイスをしていただくなど、とても充実した実技講習を受けることができました。

途中、『レフリーはなぜ、笛を吹くのか?』という問いかけが印象に残りました。『「ファウルを取り上げることは、次に進めるため」「笛を吹いて止めることは、次に進めるため」であり、罰を与えるだけではないことを考えながら吹いてほしい。また“次は気を付けてね”という気持ちをこめて吹こう。罰を与えて終わりではなく、スムーズに次に進めるのが審判の役割。だからこそ、すべてを最後まで丁寧に行い、伝えることが大切。』この言葉を聞き、本当のレフリーとしての役割を理解することができました。

講義でも様々な講師の方に聞くことができました。トップリーグで活躍されている講師の方の講話はとても貴重な経験になりました。また、外国人講師、イリア氏の講義では、自分の語学力の無さを痛感しました。なんとなく、雰囲気では聞き取ることはできるようになりましたが、高城氏の通訳に頼っていたと思います。イリア氏の講義はとても楽しく、もっと自分で聞き取れるように語学力をつけていかななくてはいけないと感じました。

これからも、上級審判になるという目標を持ち続け、努力していきたいと思います。この3日間で、上級を目指すたくさんの若手審判員と出会いました。“レフリーチームとしてみんなで盛り上がっていきましょう！”“レフリーは、個人で上がることはなかなか難しい。チームで上がっていきましょう！”ということも学びました。今回の経験を大切にして、プレイヤーやコーチとお互いに理解しあえるような審判員を目指して努力をし続けていきたいです。

最後になりましたが、3日間、素晴らしい環境の中で受講できるようにご配慮いただいた、橋本信雄審判規則部長をはじめ、講師の皆様、日本協会の皆様に深く感謝を申し上げます。また、今回、このような貴重な機会を与您いただきました田中審判長をはじめとする県内の審判部の皆様、諸先輩方にも深く感謝を申し上げますとともに、今後の私の成長が恩返しになるということを心にとめ、これまで以上の努力をしていきたいと思ひます。

ありがとうございました。